

令和3年度

聖坂学園事業所・施設事業報告

オリブ工房
オリーブ・フードファクトリー
ナザレ工房（パン工房ナザレ）
シーダひのき工房
シーダ日野学園
オリーブの家
ナザレンホーム
眞砂ホーム
相談事業所ひじりざか
横浜市神之木地域ケアプラザ

理事会・評議員会

社会福祉法人聖坂学園

1. 運営全般について

令和3年度においても法人理念を基として、障害福祉分野では、施設入所支援、障害福祉サービス事業の生活介護事業、短期入所事業、共同生活援助事業及び計画相談事業を行ってきました。地域ケアプラザは、地域福祉の拠点として介護保険制度及び横浜市委託事業における各事業について、ほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。しかしながら今年度、新型コロナウイルス感染症によるまん延防止措置の適用及び緊急事態宣言は、4月当初から9月末まで続き、更に年が明けた1月下旬から3月下旬までは再びまん延防止措置の適用と、1年間のほとんどの期間で制限を受けることとなりました。各事業所ではそれぞれ利用者の実態や建物の特性に合わせた感染防止対策を打ち出して、コロナ感染防止に努めてきました。そのような中でも複数の陽性者が出ることや重篤化して入院するケース、事業所、ユニットを数日間から長くは2週間閉鎖する事態を招くこともありましたが、感染を最小限に収めるよう法人本部や保健所等と連携を図りながら対処し、更なる感染拡大に繋がることはありませんでした。またコロナ禍により通所事業所での出勤数の低下や、シーダ日野学園の短期入所事業の中断による収入の減少は、各事業所・施設に大きな影を落としました。更に今年度、通所事業所において軒並み契約利用者を減らし、欠員状況が深刻なものとなってきています。今後、その原因を探り改善を図ると共に、新規利用者の受け入れに向けた取り組みが喫緊の課題となります。

障害福祉分野では、オリブ工房において新規事業である第3オリーブの家が、6月に開所しました。既存ホームの移転と一部利用者の引っ越しを経て、男性ホーム2棟と女性ホーム1棟、計3棟26名のグループホームに生まれ変わりました。オリーブ・フードファクトリーでは、利用定員を30名から20名に変更する申請を行いました。年度末の時点で横浜市に受理されており、これにより年間約350万円の増収が見込まれることになりました。またファクトリーとパン工房・ナザレの製パン活動では、関係団体における外販が軒並み中止となりましたが、それぞれの店舗営業は感染対策を図りつつ継続させ、地域の方々にご利用頂いてきました。シーダひのき工房では、感染防止対策としてグループ編成をしながら生活をしてきましたが、建物の構造上ワンフロアということもあり、緊急事態宣言下においては分散出勤を実施しました。相談事業所ひじりざかでは、職員をひのき工房、日野学園の職員と兼任とし、その事務所をひのき工房の活動場所に変更させる為、旧パン工房作業室に引っ越しを行いました。

高齢者福祉分野では、地域での町内会活動が軒並み中止となり、高齢者の集まりや運動の機会がなくなりました。その結果、身体機能の衰えやそれに伴う認知機能の低

下が懸念されています。子ども支援においても、休校や分散登校等が生活リズムの変調となって表れたり、多くの子ども食堂が取り止めとなり、居場所や食事に困る子どもが増えてきています。ケアプラザでは、地域で暮らす方々が普段の生活をする中で、自然に支援の恩恵が受けられるような地域づくりを目標に活動を行ってきました。また今年度、新しい介護保険業務支援システムを導入しました。それにより請求業務の効率化、相談支援の質及びセキュリティの向上に繋がりました。

2. 職員の状況について

職員では、新採用・中途採用職員は合わせて36名、年度内の異動職員は16名を数え、退職者は19名でした。昨年度と比べて退職者が半数以下を示しています。これもコロナ禍による社会の不安定さが影響しているかと推察されます。

年度当初、各事業所・施設共に指定基準上の職員数はクリアしており、シーダ日野学園においても、支援員の欠員はなく充足した状況でスタートを切りました。しかしながら年度途中で退職者が出て以降、新規採用は不調に終わり、欠員状態で年度を終えました。ここ数年来同様に宿泊勤務を伴う職員の確保は厳しい状況に変わりありません。それでも新規グループホームの開設に伴う職員については、採用と人事異動で確保することが出来たことは幸いでした。

職員の採用については、現在、成功報酬型の求人サイトや医療介護に特化したサイトなどが主流となっています。中高年層で異業種からの転職者の紹介が多いので、面接における見極めが非常に重要となっています。今後も職員採用までの求人活動と職員人事、職員定着を促進するための職場環境の整備や研修、資格取得制度など、トータルで考え取り組んでいく必要性を感じています。

コロナ禍で多くの外部研修や会合が中止になる中、オンラインによる研修、会合の機会が増えてきており、各事業所にてオンラインの環境を整えてきました。オンラインによる会合への出席や加算取得に必要な強度行動障害支援者養成研修などの研修にも積極的に受講を進めてきました。

職員の入職・退職・法人内異動（パート職員も含む）

| 事業所 施設 (職員数) | 本部 | オリブ 工房 | オリーブ・ フードファ クトリー | ナザレ 工房 (パン工房 含む) | シーダ ひのき 工房 | シーダ 日野学園 | オリーブ の家 | ナザレ ン ホーム | 眞砂 ホーム | 相談事業 所ひじり ざか | 神之木 地域ケア プラザ |
|--------------------|----|-----------|------------------------|---------------------------|------------------|-------------|------------|-----------------|-----------|--------------------|--------------------|
| 入職合計 | 0 | 6 | 2 | 4 | 4 | 0 | 6 | 5 | 2 | 0 | 7 |
| (正職) | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| (パート) | 0 | 2 | 0 | 3 | 4 | 0 | 2 | 5 | 2 | 0 | 6 |
| 異動 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 5 | 1 | 0 | 3 | 1 |
| 退職合計 | 0 | 4 | 0 | 2 | 4 | 2 | 0 | 5 | 1 | 0 | 1 |
| (正職) | 0 | 3 | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (パート) | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 異動 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |

法人全体 年度内中途採用も含む（ ）内は昨年度

入 職 36名（45名）内訳：正職12名、パート24名

異動 16名

退 職 19名（41名）内訳：正職 9名、パート10名

異動 8名

3. 障害各事業所・施設活動報告について

(1) 利用者の入所・退所人数

| 事業所 施設 | オリブ 工房 | オリーブ・ フード ファクトリー | ナザレ 工房 (パン工房 含む) | シーダ ひのき 工房 | シーダ 日野学園 | オリーブの家 (第1・第2・ 第3) | ナザレン ホーム (第1・第2) | 眞砂 ホーム (第1・第2) |
|--------------------|-----------|------------------------|---------------------------|------------------|-------------|--------------------------|------------------------|----------------------|
| 定員 (名) | 60 | 30 | 60 | 65 10月～ 60 | 50 | 26 | 15 | 20 |
| 年度始 契約利用 (名) | 58 | 21 新規2名含 | 57 | 59 | 48 | 13 | 13 | 20 |
| 入 所 (名) | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 0 |
| 退 所 (名) | 5 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| 年度末 契約利用 (名) | 55 | 20 | 54 | 57 | 48 | 24 | 13 | 20 |

(2) 利用者支援について

通所事業所における新規受け入れ利用者として、法人全体で新卒者2名をお迎えしました。退所利用者は11名を数えました。退所の理由としては、生活施設への入所が3名、他法人のグループホームへの入所が3名、法人グループホーム利用の為の異動による方が2名、他事業所への通所が1名、長期欠勤による契約解除が1名、病気による逝去が1名となります。

今年度の利用者支援においては、各事業所・施設共にコロナ感染症対策を軸に置き進めてきました。但し、ウイルスが変異を繰り返す中で弱毒化してきたことやワクチン接種が進んだこともあり、昨年度と比べると法人全体としての取り組みも多少緩和させる部分もありました。たとえば昨年度、緊急事態宣言下において、通所事業所は密回避を目的として分散出勤を実施しましたが、今年度は事業所ごとの感染対策の状況によりその実施を判断してきました。作業活動においては、作業グループを編成しての本来の活動は控えてきましたので作品の仕上がりも少なく、イベントの中止により販売の機会も失われ、活動自体にもモチベーションの維持が困難な状況が続きました。

(3) 各事業の実施件数

①生活介護事業年間実施日数 総支援日数 241日 (昨年度246日)

| 事業所・施設 | オリブ工房 | オリーブ・フードファクトリー | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき工房 |
|------------------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| 延べ利用数 | 12,938名 | 4,363名 | 11,730名 | 12,187名 |
| 平均実利用者 | 53.7名 (51.3) | 18.1名 (17.4) | 48.6名 (50.2) | 50.6名 (54.7) |
| 定員に対して 利用率(%) | 89.5% (86.5%) | 60.3% (58%) | 81% (83.7%) | 81% (87.2%) |

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

| 事業所・施設 | シーダ ひのき工房 | シーダ 日野学園 |
|-----------------|--------------|----------------|
| 延べ利用人数 (昨年度) | 0件 (1件) | 262件 (273件) |

③日中一時事業（通所事業所のみ）

| | | | |
|--------|---------------|------------------|-------------|
| 事業所 | オリブ工房 | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき工房 |
| 延べ利用件数 | 28件 (231件) | 53件 (152件) | 21件 (5件) |

④送迎サービス（通所事業所のみ）

| | | | | |
|--------|--------------------|--------------------|----------------------|--------------------|
| 事業所 | オリブ工房 | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき 工房 | オリーブ・ フードファクトリー |
| 延べ利用人数 | 7,597件 (5,250件) | 3,978件 (3,499件) | 11,297件 (11,968件) | 392件 (262件) |

4. 神之木地域ケアプラザ事業活動について

(1) 包括支援センター運営全般（公益事業）

地域の高齢者の増加に伴い、包括支援センターの業務内容は複雑化し、業務量は増加傾向にあります。職員増員で対応したいところですが、採用難や人件費の問題、事務室の制限（スペースが確保できない）等があり、ニーズに対応したサービスの提供には解決すべき課題が多くあります。

①総合相談支援

関係機関（区役所、社協、あんしんセンター、基幹相談、民生委員、医療機関等）と連携を図り、相談支援にあたってきました。また地域の情報共有を目的として地域支援会議を定例で開催してきました。

②権利擁護業務

虐待事案8件、成年後見制度事案が22件でした。

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域ケア会議を通じて、ケアマネージャー等が地域の支援者と連携を図れるよう、今年度は4回実施しました。

④介護予防ケアマネジメント

今年度新たな取り組みとして、スクエアステップの介護予防サークル団体と共催で、健康アップ講座を定例で隔月開催してきました。また適宜、フレイル予防を目的とした講座を開催してきました。

⑤地域活動交流

区役所、区社協等と連携し、自主事業として子育て支援（絵本の読み聞かせやダブルカフェの開催、外出企画等）の他に、地域の社会資源としての貸館事業を通じて、地域の活動と交流につなげることができました。

⑥生活支援体制整備

コロナ禍の影響により地域のサロンや食事会はほぼ中止となりましたが、「ICTを活用した地域活性や高齢者の情報貧困を防ぐ活動」、「災害時の要支援者や障がい者の移動支援について」、「地域ケアシステムの視点からの子ども～高齢者支援」等について、協議検討を進めてきました。

(2) 介護保険事業

①居宅介護支援事業

利用者や家族の心身の状況や意向に応じて適切なサービス利用につなげる為のサービス計画（ケアプラン）の作成や、個々のサービス事業所との利用調整を行いました。今年度は、コロナ陽性者が発生した際の代替サービスへの支援が多くありました。

ケアプランの作成：1041件（昨年比：+38）

②通所介護事業（予防通所）

要支援・要介護者の方々が身体を動かすことや、入浴・食事・交流の場を提供することにより気分のリフレッシュ、孤独の解消、心身面の維持向上を図りました。この事業は日々介護を担われているご家族の負担軽減にも大きな役割となっています。1月末に利用者のコロナ陽性が判明した後、2日間サービスを休止しました。

契約者数：52名（要支援3名、要介護者49名）

年間利用者数：5046名（昨年比：+185）

③介護予防支援事業

自社プラン作成 1072件（昨年比：-8件）

委託プラン作成 3135件（昨年比：-7件）

- ・「予防プランナー定期会合」を開始し、予防プランナーと主任ケアマネジャーが事例を共有することで、適切なケアマネジメントが実施されるようにしました。

5. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決（全事業所・施設）

| 事業所 施設 | オリーブ 工房 | オリーブ・ フードファクトリー | ナザレ 工房 | シーダ ひのき工房 | シーダ 日野学園 | 神之木 地域ケアプラザ |
|-----------|------------|--------------------|-----------|--------------|-------------|----------------|
| 事故報告 | 16 | 4 | 10 | 10 | 50 | 1 |
| ヒヤリハット | 3 | 2 | 4 | 19 | 191 | 3 |
| 苦情・要望 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 虐待 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 |

| 事業所 | オリーブの家 | ナザレンホーム | 眞砂ホーム | 相談事業所 ひじりざか |
|--------|--------|---------|-------|----------------|
| 事故報告 | 5 | 6 | 6 | 0 |
| ヒヤリハット | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 苦情・要望 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 虐待 | 0 | 0 | 0 | 0 |

①事故報告・ヒヤリハットの主な事例

骨折、薬（セットミス、誤薬、投薬忘れ、飲みこぼし等）、一時所在不明、他害（裂傷・打撲・噛みつき等）、破損（テレビ、窓ガラス、トイレ詰まり等）、転倒（打撲、裂傷）、消火器の噴霧、交通事故（公用車による）、非常ベルの鳴動、請求書の誤送付

②苦情要望の主な事例

苦情解決制度に至らないものですが、ご家族に対する職員の態度についての苦情、利用者支援に関する要望や相談、家庭生活における相談が主なものでした。

③虐待の事例

利用者の他害行為にやり返してしまう。乱暴な誘導による受傷。夜間の起き出しに対して居室ドアにガムテープを貼る。利用者の顔に落書きをする。